

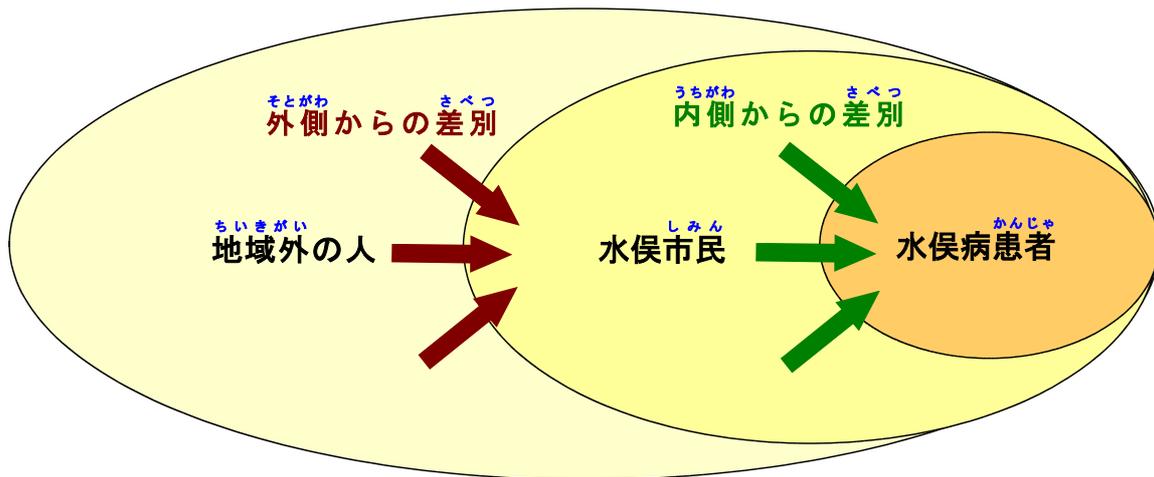
4 人権について

どうして差別があったのですか？

水俣病が発生したときは原因が分からず、うつる病気と間違われて、患者の家を消毒したり、患者を他の病気の人たちと離れた建物に入院させたりしました。これがまわりの人からうつる病気とこわがられて、差別の原因の一つになりました。

差別やいじめ[偏見]は今でもありますか？

水俣病はうつるのではないかという誤解が今でも残っていて、修学旅行先で水俣の子どもと泊まりたくないとか、水泳大会で水俣の人とは一緒に泳ぎたくないとか、今でも水俣の人たちへの差別やいじめ[偏見]が残っていることがあります。



差別やいじめ[偏見]に対してどのような取り組みがされたのですか？

水俣市ではいろいろな話し合いやイベントを通じて、市民の壊れた人間関係を直して仲良くしていこうという「もやい直し」を進めてきました。人々の交流の場として、もやい直しセンターが建設されたり、差別やいじめ[偏見]がなくなるように水俣病を正しく知って学んでもらおうと、水俣湾埋立地に隣接して、水俣市立水俣病資料館・熊本県環境センター・国立水俣病情報センターが建設されました。

